

都市再生整備計画(第5回変更)

かわまたえきしゅうへん ち く
川俣駅周辺地区

ぐんまけん めいわまち
群馬県 明和町

平成28年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	群馬県	市町村名	めいわまち 明和町	地区名	かわまたえきしゅうへんちく 川俣駅周辺地区	面積	35 ha
計画期間	平成23年度	～	平成27年度	交付期間	平成23年度	～	平成27年度

目標
川俣駅周辺住民と駅利用者の利便性・安全性の高い交通環境の改善を図るとともに、鉄道により分断された東西市街地の一体化によるふれあい・にぎわいの交流拠点づくり ・東口駅前広場の開設と東西連絡通路の整備により、駅へのアクセス性、利便性を向上させる。 ・公共交通の利用を促進するとともに、他地域との連携を図り、地域情報を集約した魅力ある駅前広場と駅周辺の活性化を目指す。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本町は、南は利根川、北は谷田川に挟まれて、東西11km南北3kmと細長い地形で人口約11,600人を有する小都市でありまして、本地区は、町の中央部を東武伊勢崎線が南北を貫き、川俣駅を中心として86haの住居系の市街化区域が指定されている町の中心部に位置しています。本地区の西方には100haを超える工業専用地域が指定され、大小40社を超える企業が集積しており、東方には役場をはじめ文教施設及び社会福祉施設等の公共公益施設が集約配置されています。このため、その中心に位置する川俣駅は、毎日多くの利用者がおり、町の玄関口となっています。 また、川俣駅は、本地区の東西軸となる2本の県道の接続点であることから、重要な交通結節点となっています。しかし、この県道は、駅に接続しているものの、歩道すらも設置できないほど道路幅が狭い上、踏切部の道路線形が非常に悪いため大型車だけでなく、乗用車同士でさえもすれ違いが困難な状態であります。特に朝夕の通勤ラッシュ時等には、送迎車両、通過車両、歩行者、自転車などが錯綜し非常に危険な交通状況が発生します。 さらに、川俣駅前には駅前広場が無いため、利用者にとっては不便な状況にあり、駅としての機能が低だけでなく、このような都市機能の不備は、街の魅力を完全に奪っています。 このため、町では昭和53年から駅周辺整備について検討を開始し、地元関係者などと事業検討を行いました但し事業実施には至りませんでした。その後、平成9年には、町の中心部に流入する大型車や通過交通を排除するため、市街化区域を囲むようにして、都市計画道路を計画し、平成11年に駅周辺整備について再度検討を行い地元調整しましたが、やはり地権者の了解が得られなかったことなどから事業化に至りませんでした。町としては、平成17年度からの第5次明和町総合計画及び明和町都市計画マスタープランにおいて、川俣駅周辺整備を町政の主要課題として掲げ、再度事業着手に向け取り組みを開始し、平成18年度には、広域的な見地から計画案の妥当性を検討し実現性のある計画案を策定するため、町議会、関係行政機関及公募者などにより組織される川俣駅周辺地域の整備に関する調整協議会を立ち上げ、平成20年には一般公募者や地域関係者などで構成されるワーキング部会も立ち上げ、ワーキング部会で計画を立案し、調整協議会で計画案を審議する体制で計画策定を進め、平成21年3月に駅周辺の骨格となる整備計画を策定いたしました。 しかし、現在の川俣駅の利用者については、通勤通学での利用がほとんどであり、都心部から1時間という地理的条件に恵まれているにもかかわらず、交流人口がほとんど無い状況です。川俣駅は、利根川まで約1.5kmとほど近く、徒歩でも約20分の距離に位置しており、利根川河川敷には利根川総合運動場、堤防上にはサイクリングロード、利根川に架かる昭和橋上からは上毛三山や富士山などが一望できる景観、江戸時代に利根川の関所や輸送で栄えた川俣宿など多くの観光資源があるにもかかわらず、駅前広場や地域の情報発信を行うことのできる施設がないことから、その潜在能力を十分に発揮できない状況にあります。今後は、これらの課題を解消するため、駅を活用したまちづくりについて、ワーキング部会メンバーや駅周辺のまちづくりに関心を持った関係者等とともに検討していく予定です。
課題
川俣駅は、現在、東西駅前広場及び駅周辺のアクセス道路が整備されていないので、安全性及び利便性を向上させるため、アクセス道路整備、東西駅前広場の開設と東西自由通路の整備により、交通結節点機能を強化する必要があります。 川俣駅へは、基幹道路の県道が東西両方向から接続しており、通勤ラッシュ時には、駅前広場のない西側の改札口に送迎車両と通過車両が集中して交通渋滞を招いたり、歩道の整備されていない道路上で乗降したり、大変危険な状態なので、利用者の安全確保をするための駅前広場を整備する必要があります。 駅周辺は町の中心であるとともに、町の商業拠点の核として、人が集い、にぎわう集客機能の充実が求められているため、東西にある都市機能を一体的に利用できる空間を創出するとともに、他地域と連携した交流拠点を形成し駅周辺地域を活性化する必要があります。駅を核として、交流人口の増大を図るため、町内にある観光資源の再発掘や情報発信を行う施設整備を行う必要があります。
将来ビジョン(中長期)
明和町総合計画では、町の顔である川俣駅を中心とした周辺地区を整備検討することが謳われていることから、交通結節点機能や基盤整備などの都市機能の充実を図る。 明和町都市計画マスタープランでは、本地区は「多くの人が交流するにぎわいのある中部地域」を将来像とし、「良好な住宅地の形成」、「駅前広場の整備」、「商業施設の立地」、「交流人口の増加」をまちづくりの目標としていることから、東西一体化によるふれあい・にぎわいのある交流拠点機能を向上させるとともに、地域情報を集積したにぎわいのあるまちを目指す。 駅の利便性の向上と駅周辺の整備効果による定住人口の増加を目指す。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目 標と指標及び目標値の関連性	従前値		目 標 値	
					基準年度		目標年度
駅周辺の満足度	%	駅周辺居住者や駅利用者へ、駅周辺の満足度を調査する	駅前広場や自由通路等の整備による事業効果を計る	12%	H22	45%	H27
観光交流施設利用者数	人／月	施設利用者数を計測する	にぎわい空間整備の事業効果を計る	0人／月	H22	300人／月	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1(交通結節機能の強化) 駅利用者の利便性の向上を図ると共に、公共交通施設(シャトルバス)で結ばれた隣接市町との連携を図り、交通結節機能を強化する。		【基幹事業】 道路:東口駅前広場、町道2－274号線、東西自由通路 地域生活基盤施設:観光案内板等、自転車駐車場 高質空間形成施設:シェルター 【提案事業】 地域創造支援事業:西口公衆トイレ・待合室整備事業 【関連事業】 地域活力基盤創造交付金 社会資本整備総合交付金事業 川俣駅東口駅前広場整備附帯事業 町道2－274号線道路改良工事附帯事業
整備方針2(明和町の玄関口にふさわしい交流拠点づくり) 東西駅前広場を繋ぐ自由通路等の駅関連施設の整備を行うとともに、駅周辺利用者と来町者が情報交換できる観光交流施設を整備し、買い物やイベントなどで集いにぎわう魅力ある交流拠点機能を形成する。		【基幹事業】 道路:東口駅前広場、東西自由通路 地域生活基盤施設:観光案内板等 【関連事業】 観光交流施設整備事業
その他 駅周辺を中心とした活性化を図るとともに定住化を促進するための取り組みとして、地域特産物や耕作放棄地などの活用を検討を行う。(新商品開発等)		

<都市再生整備計画の整備方針等>

【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・「計画区域の整備方針」欄は、目標を達成するために具体的に何をするのかを簡潔に箇条書きするとともに、欄の右にある「方針に合致する主要な事業」欄に、本計画に位置付けられている事業のうち当該整備方針に合致する主要な事業の事業名を記入すること(1つの事業が複数の方針に合致することもあり得る)。
- ・「その他」欄は、都市再生整備計画に関する事項として、特筆すべき内容があれば記載してください。

(金額の単位は百万円)

[illegible]

都市再生整備計画の区域

川俣駅周辺地区(群馬県明和町)	面積	35 ha	区域	明和町中谷の一部、新里の一部、南大島の一部
-----------------	----	-------	----	-----------------------



